

# 放射エミッション計測評価ソフトウェア EPX/RE

NEW



## W-TDS機能を成功に導く、 最新のEMCソフトウェア「EPX/RE」

「EPX/RE」はキーサイト・テクノロジー社の最新EMIレシーバー「N9048B PXE」に搭載可能なW-TDS機能を自動測定シーケンスに組み込むことで、ノイズ取りこぼしの無い信頼性の高いEMI測定を可能にした、全く新しい放射エミッション計測評価ソフトウェアです。また測定したノイズデータは周波数的な振舞いだけでなく時系列の振舞いも解析可能なため、ノイズ対策にも非常に効果的です。

FFT帯域幅内ではどの周波数も常にモニタしているという特性を備えながら、従来に比べて遥かに広い350MHzというFFT帯域幅を持つW-TDS機能を用いれば、30-1000MHzの帯域をわずか3レンジに分けてギャップレス測定を実現することが可能です。またスイープ法に匹敵する高速なスキャンスピードが得られ、しかも1周波数あたりのモニタ時間はスイープ法に比べて遥かに長くとることができます。さらにはQP検波器による測定を行う場合でも350MHzという広いFFT帯域幅が維持されるため、QP検波器を用いたプリスキャン測定も可能となりました。さらに、操作メニューや設定につきましては、永くご高評価しております当社EP9シリーズを踏襲した設計としているため、既存ユーザー様はもちろんのこと、初めて当社EMIソフトウェアをご利用になる方にとっても非常に使いやすいソフトウェアとなっています。

W-TDS機能の利点を最大限活用し、その測定シーケンスに組み入れた「EPX/RE」を用いることで、誰にでも正確で見逃しの無い自動測定を簡単に行うことができます。得られる測定結果はベテランEMCエンジニアの測定結果に匹敵する精度です。



## 不要インパルス除去機能

W-TDS機能はギャップレス測定なので、静電気、クリックのような測定対象外のインパルスの入力により、必要なノイズスペクトラムが隠れてしまう恐れがあります。EPXはこれらをノイズの発生頻度で区別し、不要なスペクトラムを取り除く機能が搭載されています。これにより測定したいノイズのみ表示されるので解析が容易になります。



## 規格適合性評価機能

W-TDS機能を行うには広い通過帯域をもつプリセレクタを使用する必要があります。ただ、低い繰り返し周波数(以下PRF)のパルスにおいて、正しいパルス応答特性を得るためのダイナミックレンジが不足する恐れがあります。よって、EPXは、ピーク値、平均値、QP値を同時に測定し、自動的に“PRFの低いパルス”の有無を検知し、該当するパルスについては狭帯域のプリセレクタで測定することで、CISPR16規格適合した測定結果を表示します。ユーザー様は従来通り何も気にすることなくコンプライアンス測定が行えます。

## 主な特長

- W-TDS機能を組み込んだ2種類の高信頼自動測定シーケンス
  - ・帯域幅内のギャップレス測定を優先した超高信頼性測定シーケンス
  - ・1回あたりの測定時間短縮を優先したW-TDSステップ測定シーケンス
- QP検波器を用いたプリスキャン
- 広い帯域を覆い隠すインパルス(PK/Maxhold)を除去してノイズ解析可能
- ノイズの振舞いを解析して適切なDwell Timeを自動設定
- ノイズの時系列データ評価
- ユーザー様でカスタマイズ可能なレポート機能